

教育ニュース「響学 共動」 No. 4

今週の児童川柳 遠足で 重いリュックせおっても あ〜楽しい(3年生)

平成 22 年 5 月 11 日

広島市立吉島小学校

「わ〜すごいな」と、子どもたちの∞の伸びしろや深い思いやりの心に感心・認識を深めたできごとがありました。4月30日に行われた児童会主催の1年生を迎える会と遠足の一場面です。

入学して1か月、入学しての感想や学校生活への心構えをことばと歌で堂々と発信する1年生。大きな驚きとともに、成長の根っ子が確実に育っていることを確信したひと時でした。最高学年に進級して1か月、1年生と一緒に半日を過ごした千田公園への遠足。遠足の行き帰りでは安全の確保を、公園内ではペア遊びに興じていた6年生。1年生の行動量にやや疲れていたようすがみられたものの、終始笑顔と温かいまなざしで遠足を支えてくれた6年生に、頼もしさを感じたひと時でした。遠足後、他の学年のようすを尋ねると、上級学年の児童がお兄さんお姉さんとしての役割を果たしていたようです。「ありがとう、おかげで楽しい遠足となったよ！！！！！」

吉島小では、自分の思いや考えを文章にまとめる活動が充実中

「書きまとめる活動」は、潜在的な自分の思いや考えを掘り起こし主張を明確にして、発信する力・意欲を高めるといわれています。授業でも書くことが必要に応じて取り入れられています。(ミニ)日記の宿題も同じ目的でだされています。

例えば、4年生では子ども新聞などを読んで、感想文にまとめる活動を行っている児童がいます。宇宙飛行士の生活用品に興味をもったAくんは、感想文のなかで水を使わないシャワーや吸引用掃除機付きのバリカンのよさをわかりやすく紹介もしています。「正しい(自転車)操作 練習しよう」のみだしに興味をもったBくんは、自分の自転車教室での体験と比べながら記事を読み、「難しい方が自分のためになるから〇〇にも挑戦したい」と文章を結んでいます。(ミニ)感想に書き記し蓄積することは、きっと大きな宝物になるはずです。同じ記事でも児童のとらえ方感じ方は多様で、さまざまな広がりや深まりがあり、交流することにより、ものごとを深くみつめる力が育っているようです。



また、6年生のなかには、初探マップを作成し平和作文にまとめることにチャレンジしている児童がいます。「平和」から連想したことをどんどん地図の中に書き記すことにより、自分のなかに住んでいる認識や思いが掘り起こされ、文章が味わいのあるもの起承転結が明確で主張の豊かなものになっているようです。

さらに、校長室前の川柳箱には、「そうだよね〜」と呟いたりふっと微笑が起きたりする季節感やユーモアの溢れる川柳、巧みに言葉をつなぎ繊細でリズム感ある川柳が児童から数多く投稿(句)され、箱を開けることの期待感が増長しています。今後は、男子児童からの投稿がもう少し増えてほしいと願っています。

「食の充実」でからだづくりが促進中 ~残食率の低下は外あそびとも関係か~

本格的に給食が始動して半月、残食率の減少へと、早朝よりさらに安全で美味しい給食づくりに励む給食の先生、食の大切さを指導する担任の先生方。

残食率に昨年と異なる傾向がみられています。例えば、4月28日の残食率をみると、昨年残食率の高かった丼物が1.7%、和風サラダが1.4%、そしてバーのから揚げは0.9%でした。またごはんの残食率も1%未満の日が何日もありました。まさに食は健康の源です。また運動は食の要因ともなっているようです。お家でも、運動をする好き嫌いを減していく習慣が続けばと思います。

